

重要特許（MPS）と企業業績：知財が生み出す「10年後の利益」の可視化



「重要特許（MPS）」の
定義と市場の早期反応



年平均被引用数が上位
5%の「エリート特許」

分野別の引用偏りや経年バイアスを排除した、透明性の高い評価指標です。



株価（PBR）は「2年
後」に有意に反応

投資家は利益が実現するより前から、知財を競争優位の先行指標として評価します。

 MPS蓄積量とPBRの
相関係数は0.23

株式市場は財務指標よりも早く、重要特許の価値を価格に織り込みます。

財務利益への貢献と
「8～10年」のタイムラグ



利益貢献には8～10年の時間的ラグが必要
知財投資の成果は短期のPLには現れず、中長期的な戦略指標として機能します。



単純な「特許件数」より「質」が業績に寄与
特許の保有量よりも、MPSのような質の高い指標の方が将来の利益と強く関連します。

セクター別利益貢献のピークと相関（出願後）

化学	10年後	0.59（中程度の相関）	
繊維製品	9年後	0.38（弱い相関）	
電気機器	8年後	0.20～0.26（弱い相関）	